



平成28年7月7日

報道機関 各位

東北大学災害科学国際研究所

第13回 防災文化講演会の開催のご案内
テーマ：津波研究のいまとこれから
～東日本大震災はどこまでわかったか、今後何に取り組むべきか～
(7月16日(土)午後)

このたび、東北大学災害科学国際研究所は気仙沼市内にて、「津波研究のいまとこれから」をテーマに、第13回防災文化講演会を下記のとおり開催いたします。

当研究所は、平成25年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに、同年10月には気仙沼分室(通称:気仙沼サテライト)を気仙沼市内に設置し、防災・減災や復興の推進に連携して取り組んでまいりました。防災文化講演会はこのたび13回目となりますが、今回も、市民の皆様との情報交流の機会として開催いたします。

ご多忙中と存じますが、本イベントについて広く周知いただくとともに、当日はご取材の上、紙面・番組等でご紹介くださいますよう、お願い申し上げます。取材にあたっての事前申し込みはご不要です。

記

1. 日時： 平成28年7月16日(土) 13時00分～16時15分(開場：12時30分)

2. 会場： 気仙沼中央公民館
(気仙沼市魚市場前1-1)



3. 主催： 東北大学災害科学国際研究所
共催： 気仙沼市

4. 趣旨：

東北大学災害科学国際研究所と気仙沼市のさらなる協力関係の強化と情報交流のため、本研究所が推進する防災・減災に関わる最新の調査・研究の成果に基づく災害科学情報を、気仙沼市や近隣にお住まいの方々ならびに関連する活動を実施されている方々に向けて発信する。

5. 対象： 一般向け（参加申込 不要）

6. 次第：

開会挨拶（13：00-13：05）

話題提供

テーマ①「東日本大震災の経験からわかったこと」

(1)最近の災害等を経験した中での東日本大震災の教訓を繋ぐ役割（13：05-13：30）

東北大学災害科学国際研究所 所長・教授 今村 文彦

(2)自動車を用いた避難はどこまで有効か？（13：30-13：55）

東北大学災害科学国際研究所 副所長・教授 奥村 誠

(3)津波土砂移動がもたらした津波被害拡大の実態

ー 京コンピューターを活用した数値シミュレーションで明らかに ー（13：55-14：20）

東北大学災害科学国際研究所 助教 山下 啓

途中休憩（14：20-14：35）

テーマ②「東日本大震災後に取り組んでいること」

(4)モバイルアプリケーションを用いた津波防災ツール

ー 東日本大震災による気仙沼市における被害データを利用した例 ー（14：35-15：00）

東北大学災害科学国際研究所 准教授 サッパシー アナワット

東北大学災害科学国際研究所 研究員 リーラワット ナット

(5)災害に強い地域づくりー災害への理解と備えー（15：00-15：25）

東北大学災害科学国際研究所 助手 保田 真理

(6)気仙沼市での津波避難シミュレーションと、地域でつくる津波避難計画（15：25-15：50）

東北大学災害科学国際研究所 助手 安倍 祥

東北大学大学院工学研究科 大学院生 牧野嶋 文泰

質疑応答・ディスカッション（15：50-16：10）

閉会挨拶

【問い合わせ先】

東北大学災害科学国際研究所 気仙沼分室
ワーキンググループ

mail: kesennuma@irides.tohoku.ac.jp

tel: 022-752-2108（担当・安倍 祥）